

計画素案作成にかかる意見について（事前意見集約結果）

○要旨まとめ（抜粋）

●【地域福祉計画】にかかわること

・現計画（概要版 P.6）「地域の中で住民同士が互いに解決できる体制づくりを進める。」→困り事が発生し、会長・役員に全て回ってくることになる、役員を引き受ける方がいなくなり、役員のなり手がなくなる。実際、解散した自治会があると聞く。困り事の相談があった場合、受け止められる青梅市で専門に受け入れる人を配置してほしい。その困り事の対応は、市で対応すればよい。市での相談窓口の創設を提案したい。

・現計画（概要版 P.13）「施策3 権利擁護や成年後見制度の推進」の項について、既に記述されてある前文の後段を次のように改める。

「また、成年後見制度の利用の促進に関する法律の施行に伴い、本計画のなかで、成年後見制度利用促進基本計画を位置づけていきます。」

・現計画（概要版 P.13）「施策4 防犯・防災等の安全なまちづくりの推進」の項について、既に記述されてある前文に、以下の文言を追加する。

「さらに、誰もが安全で安心して暮らすことができる地域社会を実現するには、犯罪を未然に防ぐことに加え、犯罪をした者等が抱える課題等を社会全体で解消することで、その立ち直りを支援し、犯罪や非行の繰り返しをなくしていく再犯防止の取り組みを推進していくことが必要なため、本計画のなかで、再犯防止推進計画を位置づけていきます。」

・地域福祉計画を進める中で、人の確保が必要であり、支える側の高齢化に伴う体力不足などから、十分に支えることができなくなる。スマホ、パソコンをもっと活用できるようにすることを計画に入れるべきと考える。既に、超高齢者になった人に、スマホ、パソコンを覚えてもらうのは、難しいが、超高齢者になる前の人たちに、スマホ、パソコンを覚えてもらう必要がある。将来、情報不足が心配になることから、情報を青梅市から適時流せる仕掛け、教育を盛り込む必要がある。IT機器（スマホ、パ

ソコン) の操作相談窓口の創設を提案する。

- ・自治会で WiFi が使える環境を整えることで、WiFi を使いに自治会館に集まるようにし、コミュニケーションを図れる場を作る。WiFi があると防災拠点、連絡窓口も作ることができる。自治会館の IT 化推進（希望のあるところだけでよい）。

- ・最も重要なポイントは、地域の中で問題を抱えている人々のリサーチと発見である。自治会や民生委員に頼るだけでなく、市民センター機能の充実、福祉の専門職員の配置等人的配置が必須と考える。また自治会への手厚い支援、民生委員への待遇改善を含めた支援が重要。

- ・地域コミュニティとの協働活動

自治会や高齢者クラブ、子供会等と課題や情報を共有して困り事を解決する活動を行う。これらをまとめて活動するコミュニティ（組織）は現在のところない。そのため市や社協から活動に必要な支援を受ける。

- ・ヤングケアラーを発見する術の検討

東京都でもヤングケアラーの援助について冊子が創られているがヤングケアラーを如何に発見するかの参考情報がない。一つには、可能性として小中学校との情報交換会があるに限定される。

●【高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画】にかかわること

- ・フレイルの予防措置

高齢者は、行政や地域のお世話になる立場として、自主的にできることには限界があるので、健康を損なった高齢者については、介護保険などを通じてその対策を既存の計画通り行政に委ねることとし、健康な高齢者の健康寿命の延伸をいかにして図るかに焦点を当て、フレイルの予防対策を次のとおりまとめた。

- ・梅っこ体操の普及

高齢者クラブの、各単位クラブ毎に体操部を置き、体操を普及することにより、運動と社会参加の両方を達成することができる。

- ・フレイル予防に関する啓発

市高連では、会員を対象として、年4回程度の講演会を開催しているが、この中に、フレイル予防のテーマを常時取り入れ、普及啓発を図る。

- ・地域サロンの開設

現計画にも搭載されているが、地域サロンを市内全域に拡充していく。これの運営は、高齢者クラブの、各単位クラブに委託して行う。こうすることにより、高齢者クラブ会員と非会員の交流が深まり、生きがいを高めることにつながる。

- ・高齢者の見守りシステムの一元化

見守り体制の現状を見てみると、民生委員・高齢者クラブの一部・自治会の一部・社協・第二層協議体・その他自主的組織等々が別々に行っている。これでは、非効率であるほか、効果的な見守りができない。この際、これらを一元化する必要がある。

- ・高齢者クラブへの支援

高齢者クラブ連合会は、昭和36年設立依頼60年が経過した。この間、各種事業を展開してきたが、①年を追って会員が減少し、この傾向に歯止めがかからない状況である。更に、②ここ数年単位クラブの解散が後を絶たない。原因は、①＝新規入会者が少ない（理由＝クラブに魅力がない）②＝役員のみ手がない（理由＝ボランティアとして限界）①については、市高連として懸命の努力をしているが、効果が上がらない。②については、単位クラブ役員に対して、何らかの措置があれば解決できるものと考えられる。したがって、計画の中に、市高連への補助制度の見直しを盛り込みたい。

● 【障害者計画・障害福祉計画・障害児福祉計画】にかかわること

- ・ 青梅に一番必要な基幹相談支援センターの機能がないことが問題
- ・ 障がい者が一人でも重要拠点に行ける公共交通機関を整備してほしい
- ・ 利用者と市内施設職員と情報交換の場を増やす
- ・ 自立支援協議会の相談支援部会の会議を開催する
- ・ 障害を持った人たちが自分で暮らしや仕事を選べるように、横でつながり分野を超えて情報共有する環境を作る